



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第4号
(5月22日～6月2日)

令和3年5月21日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

結実を確認の上、早めに摘果を！
「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は5月28～29日頃！！
黒星病の被害葉・被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分!!!

I 概要

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）で平年より3日早い5月13日、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より6日早い5月13日であった。

結実を確認した上で、仕上げ摘果を行う。サビなどの障害がなく形の良い果実を見極め、早めに終えるようにする。

「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は、5月28～29日頃に実施し、「6月中旬」までの散布間隔があき過ぎると見込まれる場合は、追加散布の準備をする。

りんご黒星病の被害葉・被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

本年は、腐らん病の発生が目立っているため、枝腐らんは見つけ次第切り取り、胴腐らんは適切に処置を行う。

II りんご生産情報

1 生育、作業の進み、病害虫の動き

(1) 生育ステージ

ふじの落花日は、黒石（りんご研究所）で平年より3日早い5月13日、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より6日早い5月13日であった。

○落花日 (月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5.14	5.13	5.10	5.13
	平 年	5.17	5.16	5.15	5.16
	前 年	5.15	5.14	5.13	5.14
五 戸 (県南果樹部)	本 年	5.13	5.13	5.9	5.13
	平 年	5.19	5.19	5.17	5.19
	前 年	5.15	5.15	5.13	5.15
青森市浪岡 (東青地域県民局)	本 年	5.16	-	5.12	5.15
	平 年	5.19	-	5.16	5.18
	前 年	5.16	-	5.13	5.16
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	5.15	5.12	5.10	5.14
	平 年	5.17	5.16	5.14	5.17
	前 年	5.16	5.15	5.13	5.17
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	5.14	5.15	5.12	5.15
	平 年	5.17	5.16	5.16	5.18
	前 年	5.14	5.13	5.13	5.16
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	5.10	5.10	-	5.9
	平 年	5.16	5.16	-	5.15
	前 年	5.17	5.17	-	5.15

注1) 落花日：頂芽花の70～80%落花したとき

2) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) 作業の進み（5月19日現在）

本年は、低温や降雨の影響により、薬剤の散布時期がばらつき、「ふじの落花直後」の薬剤散布は、5月7日頃から始まり5月15日頃まで行われた。「ふじの落花10日後頃」の薬剤散布は、5月17日頃からは行われている。

王林やつがる等の一つ成り摘果が行われている。

(3) 病害虫の動き

(5月20日現在 りんご研究所)

黒星病	子のう孢子及び分生子の飛散継続中 感染危険度はアップルネット (https://www.applenet.jp/) に掲載中 葉上病斑初発(本年:黒石5月12日、平年:黒石5月14日) 無防除の県予察圃での新梢葉発病葉率(ふじ) 本年:黒石5月20日2.9%、平年:黒石5月20日4.5%
腐らん病	病斑の伸展、孢子の飛散ともに継続中
うどんこ病	分生子の飛散継続中
モニリア病	まもなく実腐れがみられる(平年:黒石5月22日)
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化終了、幼虫が葉を加害中 (ふ化終息 本年:黒石5月9日、平年:黒石5月14日)
リンゴハダニ	幼虫～成虫が葉を加害中 (ふ化終息 平年:黒石5月16日)
クワコナカイガラムシ	越冬世代幼虫の移動が始まる (移動初発 本年:黒石5月20日、平年:黒石5月21日)
ナシヒメシンクイ	越冬世代成虫の羽化継続中

2 作業の重点

(1) 薬剤散布

ア 第5回目「ふじの落花20日後頃」

「ふじの落花20日後頃」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月28～29日頃に実施する。

黒星病や黒点病などの重要な防除時期なので、基準散布量を守り、10日間隔で降雨前の散布を徹底する。

うどんこ病の発生が多い園地では、コナケン顆粒水和剤4,000倍も使用する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

第5回目：「ふじの落花20日後頃」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a	
黒石	5月28～29日頃	炭酸カルシウム水和剤	4 2 0 0	
弘前		デランフロアブル 又はチウラム剤		1,500倍 500倍
三戸		(チオノックフロアブル トレノックスフロアブル) 又はマンゼブ剤 (ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤)		600倍

イ 追加散布

次回の「6月中旬」までの散布間隔があき過ぎると見込まれる場合は、追加散布を実施する。

追加散布

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石	6月7～8日頃	炭酸カルシウム水和剤	100倍
弘前 三戸	(目安)	デランフロアブル 1,500倍 又はチウラム剤 500倍 (チオノックフロアブル トレノックスフロアブル) 又はマンゼブ剤 600倍 (ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤) 又はアントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又は有機銅剤 (キノンドー顆粒水和剤 1,000倍) オキシンドー水和剤 1,200倍	4 2 0 0

なお、農薬の年間使用回数を超えないように十分注意する。デランフロアブルは極早生品種には使用しない。

(2) 黒星病対策

「ふじの落花20日後頃」の散布までは、降雨に伴い子嚢の胞子が多く飛散するので、油断することなく、薬剤散布は10日間隔を遵守し、散布ムラがないように基準量を丁寧に散布する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

りんご研究所の殺菌剤無散布の県予察ほにおける黒星病の葉上病斑は、平年より2日早い5月12日に確認され増加している。自園地の状況を確認し、被害葉・被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(3) 腐らん病対策

本年は、腐らん病の発生が目立っている。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

ア トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、薬液の浸透性を高めるために周囲の健全な表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。

イ フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形にかつ切断面が直角になるよう削り取ってから薬剤を広く噴射又は塗布する。

- ウ 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。
- エ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。

(4) うどんこ病対策

近年、発生が目立ってきているので、伝染源の密度を下げるため、被害花そう・葉そうは見つけ次第枝ごと切り取り、適切に処分する。

(5) モニリア病対策

実腐れ、株腐れはそのまま放置しておく、自然に落下して越冬し、翌年の伝染源となるので、見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

実腐れは、つる（果柄）ごと摘み取り、果そうに褐変組織が残らないようにする。また、株腐れは果そうごと摘み取る。

(6) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(7) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、5月下旬～6月上旬に取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いので、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

(8) 摘果

結実を確認した上で、品種別の標準的な着果程度を目安に、仕上げ摘果を行う。サビなどの障害がなく形の良い果実を見極め、ふじでは落花25日後頃までに終えるようにする。

原則として、果実は2～4年枝上に着生した頂芽に成らせる。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる（果柄）が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、さかさ実、果台が長い果実（ふじではおよそ2cm以上）はできるだけ摘み取る。

摘果剤を散布した場合、落果はおよそ散布10日後頃から始まるので、効果の発現状況を見極めて、仕上げ摘果は遅れないようにする。

なお、霜害があった園地で摘果を行う際は、被害がごく軽微（果柄の傷など）であれば側果ではなく中心果を残す。また、標準着果量が中心果で確保できない場合は、側果を活用する。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星 ・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21 ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

結実量が多く摘果が遅れそうな園地では、積極的に摘果剤を使用する。

展着剤を加用したミクロデナポン水和剤85の1,200倍を使用し、果実に薬液が十分かかるように、10a当たり3500～5000を散布する。

ふじ、王林、さんさ、早生ふじ、トキ、シナノスイートでは「満開後2週間頃」（ふじでは中心果の横径10mm位の時に散布）、紅玉では「満開後3週間頃」（紅玉では中心果の横径16mm位の時に散布）のそれぞれ1回散布とする。

つがる、ジョナゴールド、世界一、千雪など早期落果の多い品種やぐんま名月など落ちすぎる品種にはかからないように注意する。

本剤散布による落果は、散布10日後頃から始まり、以後10～14日間継続する。ただし、天候の影響によっては効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので仕上げ摘果は遅れないようにする。

(9) ふじ・早生ふじのつる割れ軽減対策（ヒオモン水溶剤の利用方法）

例年、つる割れの発生が多い園地では、ヒオモン水溶剤3,000倍を満開20～30日後に散布することでつる割れの発生を軽減できる。なお、使用に当たっては次のことに留意する。

ア 単用散布とする。

イ 散布後に葉がしおれる症状を示すが、1週間後頃にはほぼ回復する。

ウ 高温・乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。

エ 極端に樹勢の弱い樹への散布はさける。

オ 果実肥大が抑制される場合がある。

カ 新梢の二次伸長を助長する場合がある。

キ 摘果剤（ミクロデナポン水和剤85）を散布した後に本剤を使用した場合、摘果剤の効果が抑制される。

(10) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(11) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の精製硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

なお、苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水100ℓ当たり使用量（倍数）	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500g（67倍）	2,000g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,000g（100倍）	1,400g（71倍）

(12) ビターピット防止対策

ビターピットは幼果期（6月）の少雨や夏期の高温によって発生が多くなる。例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期の少雨、夏期の高温が予想される場合は、表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

なお、樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量（倍数）	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) ひこばえ、徒長枝の切り取り

4 今後の作業（6月3日～6月17日）

- (1) 薬剤散布 (2) 摘果 (3) 袋かけ (4) 草刈り (5) ひこばえ、徒長枝の切り取り (6) 腐らん病対策 (7) クワコナカイガラムシ対策 (8) 追肥 (9) ビターピット防止対策

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、放任園等発生防止強化月間中(5月)

《 りんご黒星病の予想感染危険日 》

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、りんご黒星病の予想感染危険日と感染危険度をアップルネット (<https://www.applenet.jp/>) に掲載します。

予想感危険日は、天気予報から予想した黒星病が感染する危険性が高い日のことです。感染危険日に散布を予定している場合は、気象情報に注意し、降雨前散布を徹底しましょう。

感染危険度は過去の気温と湿度のデータから、黒星病の感染の危険性の高さを示しています。

青森県農薬危害防止運動展開中(5月1日～8月31日)!

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<https://www.applenet.jp/nouyaku/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

◎果樹共済

「果樹共済」はりんご・ぶどう・ももを対象として、災害による収穫量の減少、樹体の損傷に対する損害を補償します。

なお、暴風雨等の特定の災害に限定して補償する「特定危険方式」は令和3年産までで廃止されることになっています。令和4年産からは病虫害も対象となる「総合方式」または、「農業経営収入保険」への切り替えが必要です。

◎農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象となる総合的なセーフティネットです。新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した場合も補償の対象となります。（青色申告の実施が要件）

※詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

農作業安全を心がけましょう！

次回の発行は令和3年6月2日（水）の予定です。

緊急のお願い！
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5093、5094
017-734-9492直通